



Title	中国研究集刊 日号（第9号） 田竜通信/奥付
Author(s)	
Citation	中国研究集刊. 1990, 9
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60806
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

田竜通信

*執筆者紹介(掲載順)

杉山一也 大阪大学大学院学生

吉永慎二郎 京都女子大学等非常勤講師

川原秀城 岐阜大学助教授

寺門日出男 大阪大学助手

朱 廣興 竜谷大学等非常勤講師

武田時昌 信州大学助教授

*前号の補訂とお詫び。弊誌一九八九年十一月刊荒号所載論考「へ王弼の因循」傍注(湯城吉信撰)において沢田多喜男先生の学説を紹介していますが、その該当論考名「老子王弼注考察一斑」(東京大学東洋文化研究所『東洋文化』六二号・一九八二年)が欠落しておりました。これはすべて編輯責任者の加地伸行の責任であります。深く反省し、沢田多喜男先生にその非礼を謹んでお詫び申しあげます。またその不十分さにつきまして、読者諸氏に対しましても併せてお詫び申しあげます。

*研究室の異動。大学院学生の藤居岳人は、阿南工業高等専門学校(徳島県)専任講師として、同じく湯城吉信は弓削商船高等専門学校(愛媛県)専任講師として、ともに四月一日をもって赴任した。

在籍者は、大学院学生五名(後期課程二名、前期課程三名)学部学生一名。

*研究室出身者の異動。野村茂夫氏（愛知教育大学）は皇学館大学教授に、武田秀夫氏（京都産業大学）は追手門学院大学教授に、鵜飼尚代氏は愛知女子短期大学専任講師に、竹田健二氏（弓削商船高等専門学校）は新潟大学教育学部助手に、それぞれ四月一日をもって赴任した。

*今年度の学外非常勤講師は、下見隆雄・広島大学教授、堀池信夫・筑波大学教授、村上哲見・東北大学教授、浦野俊則・二松学舎大学教授、富永一登・大阪教育大学助教授、黄当時・仏教大学専任講師である。

*山東社会科学院儒学研究所の副研究員、于時化氏が、外国人客員研究員（中国へ大陸へ政府派遣研究員）として、五月十日に来日、本研究室に在籍しつつ、一年間、滞在する。研究主題は「日本の近代化と儒教」である。

同氏は、中国（大陸）政府が行なっている研究員試験（研究者の海外研修者選抜試験）に合格し、政府間協定によって来日した人士である。また、金谷治東北大学名誉教授の御紹介もあった。

*私は于氏のような研究者は別として、学生の場合は留学生ならば考慮するものの、就学生については、原則として受け入れないことにしている。留学生でも、国費留学生であり文部省が配置依頼をしてくる場合以外、よほどの理由がない限り受け入れないことにしている。

なぜか。最近、外国人とあれば、だれでもかかれでも受け入

れる風潮に対して批判的だからである。本当に理由があるときは、留学生であれ、就学生であれ、喜んで受け入れる。しかし、わけのわからない人物のときは、受け入れるべきではあるまい。今号執筆者の朱廣興君の場合は、国費留学生（台湾）として来日、大阪大学大学院（社会言語学専攻）で五年の課程を終え、その間、論文を発表、現在、大学の非常勤講師として勤務しつつ研究を深めている。私は同君と二人でこの四年間いっしょに『朱子語類』を読んできたが、研究者としての資質は十分にあり期待している。この朱君のような外国人学生を理想としている。

ちなみに、本号所載の朱君の論考は、拙著『中国論理学史研究』中の「古代漢語における主語の存在に対する疑問」の影響を受け、漢語の構造に対して語学的に抜本的にメスを入れようとするものである。当面の批判対象となった大河内康憲氏の反論を大いに歓迎する。学問論争の場として本誌はいつでも大河内氏の反論を掲載する用意がある。御寄稿いただきたい。

（加地伸行）

中国研究集刊

ISSN 0916-2232

編輯・発行

郵便振替口座番号

日号 (1990年 7 月31日刊)〔総第 9 号〕

大阪大学文学部中国哲学研究室

大阪大学中国学会 加地伸行

(560 豊中市待兼山町1-1, 大阪大学内)

大阪 6-34413 中国研究集刊

印刷・タカラ写真製版(株)